

川原湯を
見守り続けて
400年！



10 年程前、数年間開催された「大栃の木探検隊」（長野原町公民館主催）は人気企画。覚えていた方もいるのでは？



昭和 30 年代、地元の人びとによる調査が行われた際の記念写真。写っているのは既に枯れてしまった初代の木。



トチノキのほとんどが斜面に踏ん張るようにして立っている。なぜここに大木が残るのかには諸説あるそう。



沢沿いに現れる柱状節理の露頭。割れ目がさまざまな方向を向いていて、マグマのエネルギーを実感！

栃の実も
ビックサイズ



根元まわりを
測ると 6m 以上！



すでに枯れてしまった 1 世代前のトチノキ。これだけの大木でもなんらかの影響でたった数年の間に枯れてしまうこともあるという。



トチノキは老齢になると皮が剥がれやすく、剥がれた部分が渦巻きや波のような模様になる。



見る 知る 歩く
ジオなまち
ながのはら

森へ、神社へ 巨木・ご神木に 会いに行こう！

「長野原町内の巨木・古木」

vol. 18

町内の豊かな森林や古くからの寺社には、樹齢数百年と言われる巨木が今も生き続けています。川原湯の沢沿いの奥に残るトチノキの巨木群のほか、歴史にまつわる古木やご神木をご紹介します。



オオトチノキを
目指して、
いざ出発！



山奥にひっそりと残る
オオトチノキを探して。

川原湯地区と東吾妻町との境の山奥の奥地に、トチノキの巨木群がある。そう聞いて実物を確かめに出かけました。スタート地点は打越代替地。ここから大栃沢と呼ばれる沢沿いに山へと分け入ります。

沢登りを始めて15分ほどで、目の前に大きな岩壁が現れます。柱が積み重なったように見える岩壁は、柱状節理といって、大昔の火山活動の際にマグマが冷えて固まるときにできたもの。このあたり一帯が古くは火山だったことがわかります。さらに進むと「石樋」と呼ばれる一枚岩の川床（ツルツルと足が取られて登るのが大変！）や、大きな岩の下から水の湧き出るスポット

などもあり、沢登りはジオパーク的な要素も盛りだくさん！

片道40分ほど歩き続け、静かな広葉樹の森に到着。見上げた先に、ひととき大きな樹木がボツボツと見えてきました。これが目指す大トチノキです。遠くから見るとそれほど大きく見えなくても、根元まで近づいてみればその大きさと迫力に圧倒されます。樹齢300〜400年は経つとされるこれらのトチノキは、斜面にどっかりと根を張り、空を覆い尽くすように枝葉を広げています。古木のため樹皮はところどころ剥げてウロコのような波紋模様になっています。ちょうど実が熟し始めたところで、ドサツ、ドサツと大きな栃の実が頭上から降ってきます。周囲にはシカやイノシシの来た形跡もあったので、この栃の実には彼らのご馳走なのでしょう！

初代と思われる木はすでに朽ちて跡形もなく、ほかにも枯れ木が見られましたが、6〜7本は現存していることが確認できました。人里離れた森の奥でひっそりと、悠々と時を重ねる巨木たち。私たちの町や森の守り神のよう感じました。

